コロナ禍における在住外国人が抱える問題と不安に関する横断的調査

NPO 法人 Treasures of The Planet
コロナ禍における長崎大学外国人支援ボランティアグループ

調査実施団体：NPO Treasures of The Planet がコロナ禍での在住外国人支援のための長崎大学ボランティアグループとの協働で実施。

【背景】
コロナ禍において、日本ではロックダウンや検疫、そしてソーシャルディスタンスの奨励など多岐にわたる対応により新型コロナウイルス感染症拡大の制御対策を講じてきている。かかる状況下、これら政策の情報が在住外国人のもとにいかに届き外国人コミュニティの心身の健康にどのような影響を与えているかを分析・理解する。

【目的】
課題や悩みを緩和するための相談や情報提供を効果的に行うために、コロナ禍の日本に住む在住外国人について特に長崎市を中心に不安や生活上の問題点の特定化を図る。

【結果】
2021 年 1 月から 3 月にかけて、コロナ禍の日本に住んでいる外国人居住者を対象に、Web ベースの横断的調査を 13 か国語で実施し、359 の有効回答を得た。
回答者のうち、47.4%が長崎市に居住しており、 25%以上は日常生活に必要な日本語でのコミュニケーションに差し支えがあると回答。36.5%は学習や仕事で問題や困難を抱えており、32%は、「外国人」を理由に差別されていると感じていると報告。また、コロナ禍で失業したという回答は 12.8%に留まる一方で、47.1%が家計の全体的な経済的安定性の低下を感じている。1／3 の回答者は情的・精神的・身体的健康および性的満足度が以前よりも低下と回答したが、大多数は変化なしの回答であった。また、子どもたちの 20.0%が幸福度を感じないと回答し、12.2%がメンタルヘルスの低下を感じている。親の意識調査ではコロナ禍の子どもへの最も影響していることとして「情緒不安定」の増加を挙げている。

【結論】
コロナ禍の日本に居住する外国人も多くの問題を抱えつつ生活していることが判明した。

調査結果の概要

回答者の：

- 47.4%は「長崎市」に居住者である。
- 58.8%は「学生」で最も高い回答率を占めている。
- 25%以上は「日本語での日常生活」が困難である。
- 約 1%は「短期ビザ」での滞在者で、健康保険等に未加入である。
- 75.8%は COVID-19 に係る情報をテレビ・新聞・雑誌またはインターネットから入手している。
- 63.5%は COVID-19 に感染した場合の対処方法を母語で情報を得たいと希望している。
- 36.5%は学習や就労に関する問題や困難を抱えており、32%は「外国人」を理由に差別を感じている。
- 12.8%は失業の不安を抱えている。
- 約 50%は減収に加え友人や隣人との交流の機会が減り、また野外活動の機会も減っている一方でゲーム・スマートフォンやテレビ等に費やす時間が増えている。
- 47.1%は家計全体の不安定さを感じている。
- 約 3 分の 1 が「心身及び性的」満足度が低下しているが、過半数は「変わらない」と感じている。
- 子どもの 20%は幸福度が低下しており、12.2%の子どもは心的影響を受けている。

About this issue

この調査報告は、特に長崎市に居住する外国籍居住者がコロナ禍で抱える問題や不安を解消することを目的に 2021 年 1 月 1 日～同年 3 月 30 日にかけてインターネット上で実施した横断的調査の結果をまとめたもの。12 か国語で実施され、アクセス数は 485 名、回答者は 392 名で回答率は 80.8%であった。回答者のうち、無回答率が 5%以上の場合、及び個人的な質問等に無回答であった場合は統計から除外した結果、有効回答数を 359 名として本調査の結果を取りまとめている。

本調査の項目は：

- 基本情報として、「年齢」「性別」「出身地/地域」「日本の居住地」「婚姻状況」「最終学歴」「就労状況」「在留資格」「健康保険等の種類」「配偶者/パートナーの国籍」「日本の在留期間」「日本語能力」「同居人数」を調査の上、
- 家族との関わりについて
- 情報元/入手方法
- コロナ禍にて困っていること
- 現在の心の健康状態
- 個人的に困っていること
- 子どものことでこまっていること　　を調査した。

調査対象は、COVID-19 感染の有無に関係なく、コロナ禍の日本に滞在する外国籍を有する 18 歳以上の人とした。

調査手法

本調査は、在住外国人がコロナ禍に日本で生活するにあたり直面している課題を把握することを目的としているので、より幅広く調査を実施するために、英語で作成した質問票をアラビア語、中国語、フィリピン語、インドネシア語、日本語、韓国語、ラオス語、マレーシア語、ネパール語、スペイン語、タイ語、ベトナム語を含む複数言語に翻訳しインターネット上に公開した。共同研究者と協力し、学校、大学、教会、スーパーマーケット、コミュニティイベント等に加え、在住外国人のプライベートソーシャルネットワークを介して本調査の周知・協力依頼を行い、質問票を公開しているインターネット上での回答を得るという方法にて調査を行った。

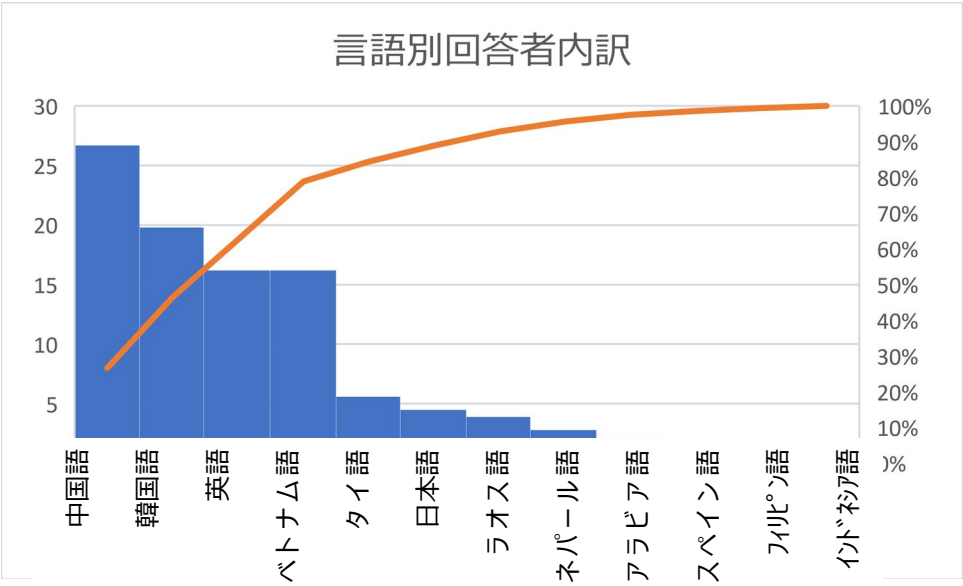
1. アクセス（回答者）内訳

調査票は、アラビア語、中国語、フィリピン語、インドネシア語、日本語、韓国語、ラオス語、マレーシア語、ネパール語、スペイン語、タイ語、ベトナム語の 12 の言語に翻訳の上、インターネット上で公開した。有効回答数（359 名）のうち、最も多かったのは中国語（26.7%）で、続いて韓国語（19.8%）、英語（16.2%）、ベトナム語（16.2%）の順であり、日本語でのアクセス数（回答数）は 4.5%に留まった。

表１：言語別回答者内訳

言語	人数	回答率
アラビア	7	1.9
中国語	96	26.7
英語	58	16.2
インドネシア語	2	.6
日本語	16	4.5
韓国語	71	19.8
ラオス語	14	3.9
ネパール語	10	2.8
フィリピン語	3	.8
スペイン語	4	1.1
タイ語	20	5.6
ベトナム語	58	16.2
合計	359	100.0

グラフ１：言語別回答者内訳



2. 基礎情報

本調査の回答者に係る基礎情報として、「年齢」「性別」「出身地/地域」「日本の居住地」「婚姻状況」「最終学歴」「就労状況」「在留資格」「健康保険等の種類」「配偶者/パートナーの国籍」「日本の在留期間」「日本語能力」「同居人数」を調査し、結果概要は下記のとおりである。

主要傾向

回答者の：

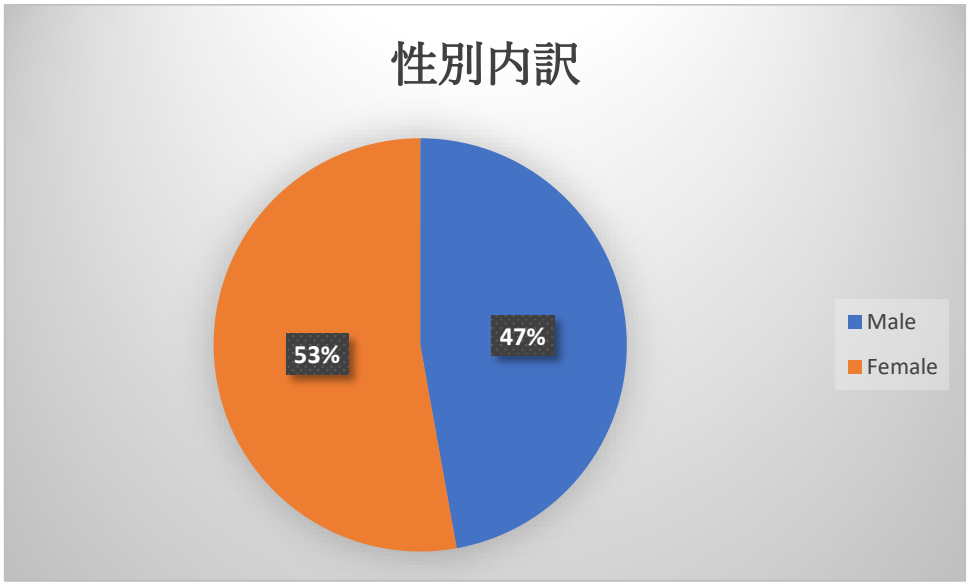
- 47.4%は長崎市に居住。
- 90%弱は 18 才～44 才。
- 58.1%の在留資格は「学生」で最も高い回答率を占め、続いて「就労」（21.1%）となった。
- 約 1%は「短期ビザ」での滞在者で、健康保険等に未加入である。
- 大部分の日本語能力は「日常生活に差し支えがない」が、25%以上は「日本語での日常生活は困難」である。

2.1 性別内訳

2021 年 1 月 1 日～3 月 30 日の調査期間中に回答した 359 名のうち、性別を回答したのは 354 名のみであった。

回答者の：

- 男女比率は 1 対 1.1 であった。
- 52.8%は女性で回答者の過半数を占めた。



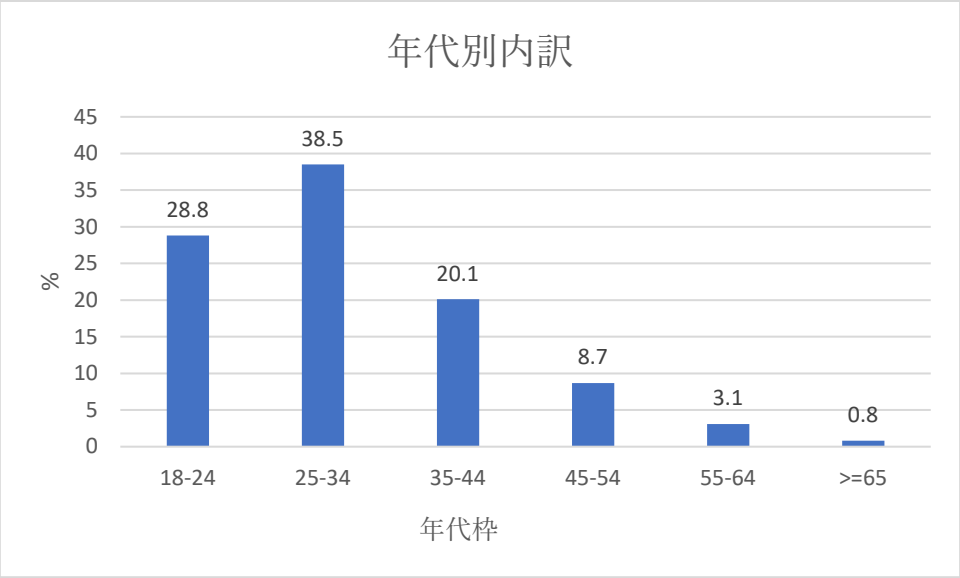
性別　(回答数=354)	人数	%
男性	167	47.2
女性	187	52.8

2.2 年代別内訳

2021 年 1 月 1 日～3 月 30 日の調査期間中に回答した 359 名のうち、年齢を回答したのは 358 名であった。

回答者の：

- 90%弱は 18 才～44 才であった。
- 0.8%は 65 才以上であった。



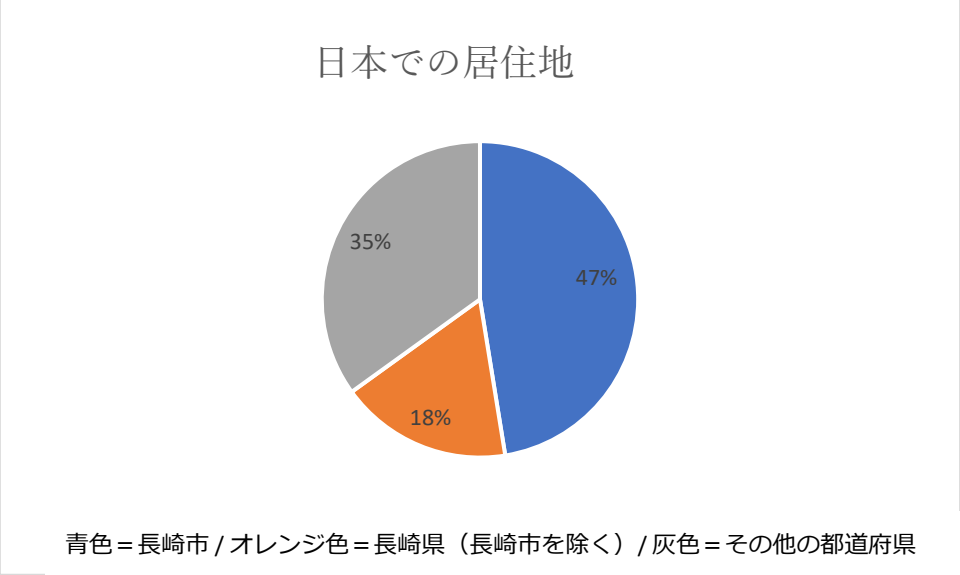
年代別　(回答数=358)	人数	**%**
18-24	103	28.8
25-34	138	38.5
35-44	72	20.1
45-54	31	8.7
55-64	11	3.1
65 才以上	3	0.8

2.3 日本の居住地別内訳

日本での居住地については 352 名の回答があった。

回答者の：

- 47.4% は長崎市に居住している。
- 17.6% は長崎市以外の長崎県内居住者で、34.9%は長崎県以外の都道府県居住者であった。



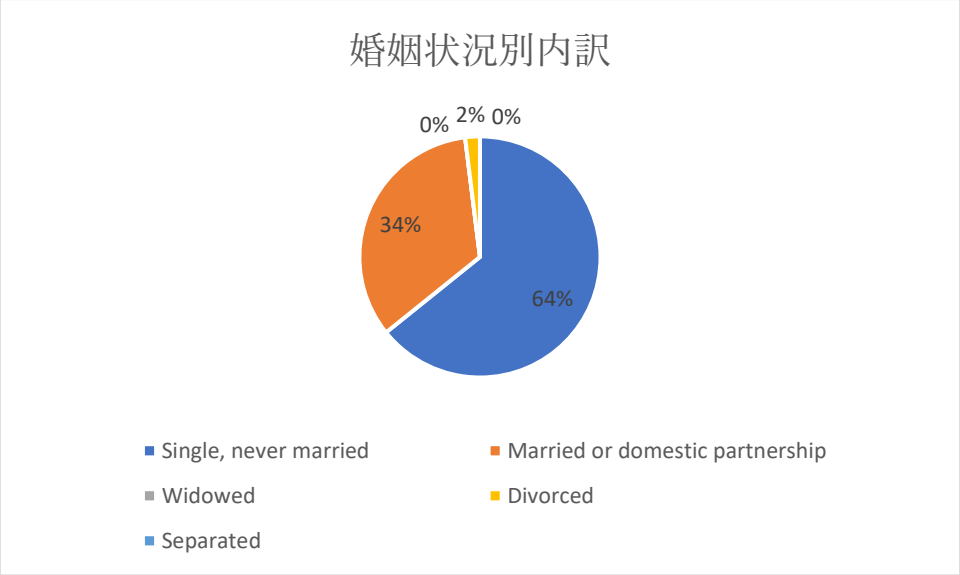
居住地別　(回答数=352)	人数	**%**
長崎市	167	47.4
長崎市を除く長崎県内の市/町	62	17.6
長崎県以外の都道府県	123	34.9

2.4 婚姻状況

婚姻状況に回答したのは 355 名であった。

回答者の：

- 64.2%（約 3 分の 2）は既婚歴無しの独身である。
- 33.8% は内縁関係者を含む既婚者である。
- 2% は離婚歴あり。



婚姻歴 (回答数=355)	人数	**%**
独身（婚姻歴無し）	228	64.2
既婚者（内縁関係を含む）	120	33.8
死別	0	0
独身（離婚歴あり）	7	2.0
別居	0	0

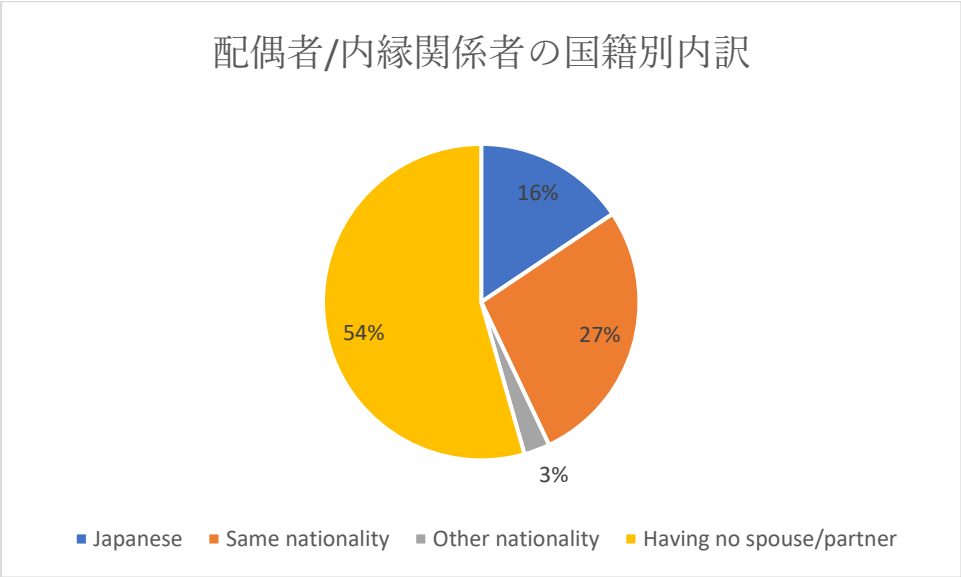
2.5 配偶者/内縁関係者の国籍別内訳

内縁関係者を含む配偶者がいると回答した 340 名であった。

回答者の：

- 15.6% の配偶者は日本国籍である。
- 27.4%の配偶者は回答者と同じ国籍を有している。
- 2.6%の配偶者は回答者とは異なる国籍を有している。

回答者の 50% 以上は配偶者なしである。

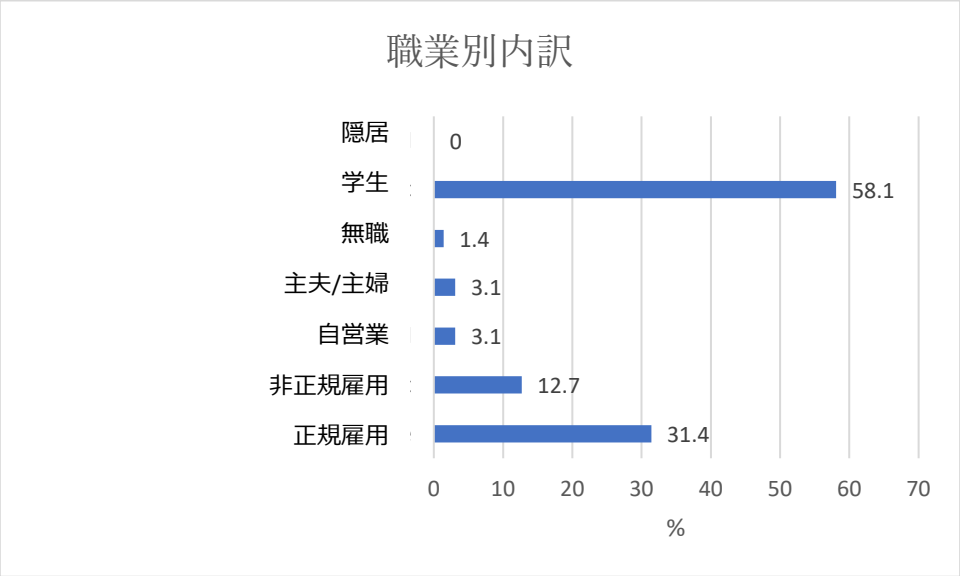


配偶者/内縁関係者の国籍(回答数=340)	人数	%
日本	53	15.6
回答者と同じ	93	27.4
回答者とは異なる（日本国籍を除く）	9	2.6
配偶者/内縁関係者なし	185	54.4

2.6 職業別内訳

職業に関する設問に回答した 353 名の回答者の：

- 58.1% は「学生」である。
- 31.4%は正規雇用者で、12.7% はパートタイムか非正規雇用者である。
- 3.1%は主夫/主婦である。
- 1.4%は無職である。



職業別内訳(回答数=353)	人数	%
正規雇用	111	31.4
非正規雇用	45	12.7
自営業	11	3.1
主夫/主婦	11	3.1
無職	5	1.4
学生	205	58.1
隠居	0	0.0

長崎市在住者の職業別内訳結果

167 名は長崎市居住者で、内 3 名の職業は無回答。最も多いのは学生で 65.2%を占める。

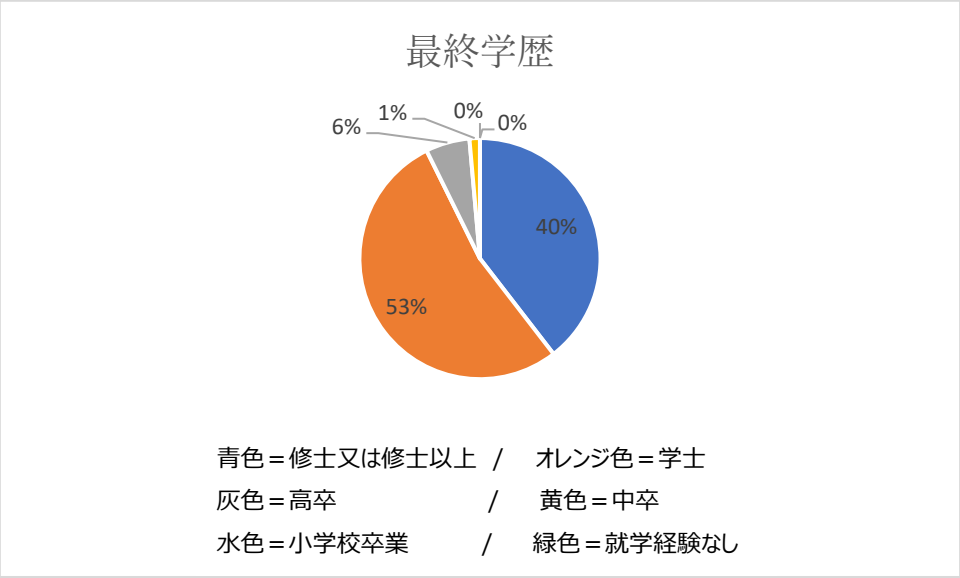
職業別内訳(回答数=164)		
正規雇用	44	26.8
非正規雇用	20	12.2
自営業	5	3.0
主夫/主婦	3	1.8
無職	3	1.8
学生	107	65.2
隠居	0	0.0

2.7 最終学歴

最終学歴を回答したのは 354 名であった。

回答者の：

- 92.6%は大学を卒業しており、内 53.1% は学士、39.5%は修士または修士以上の学位を有している。
- 5.9% は高卒である。
- 1.4%は中卒である。



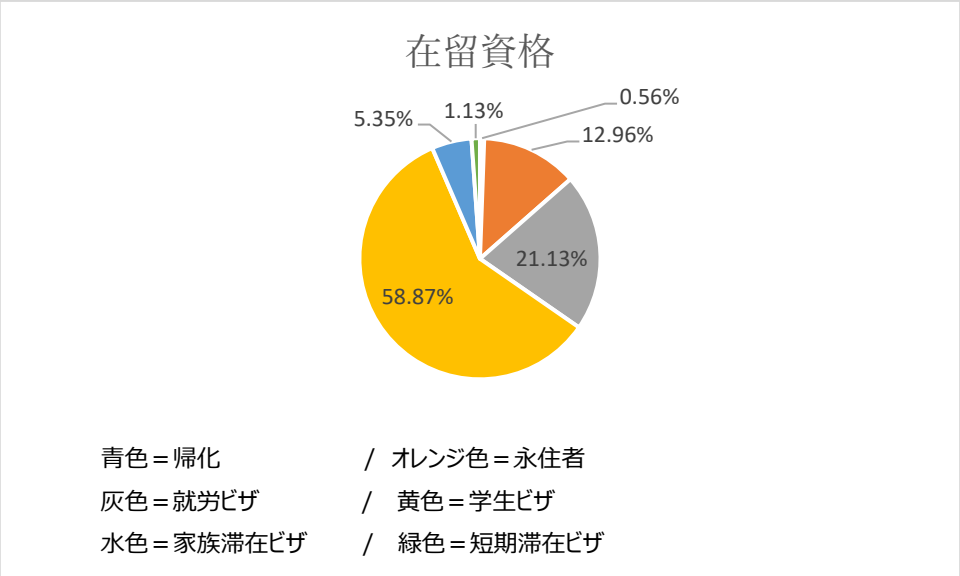
最終学歴　(回答数=354)	人数	%
修士又は修士以上	140	39.5
学士	188	53.1
高卒	21	5.9
中卒	5	1.4
小学校卒業	0	0
就学経験なし	0	0

2.8 在留資格

在留資格を回答したのは 355 名であった。

回答者の：

- 58.9% は「学生」
- 21.1% は「就労」
- 13.0% は「永住者」
- 0.6% は「帰化」
- 1.1% は「短期滞在」で、5.4%は「家族滞在」である。



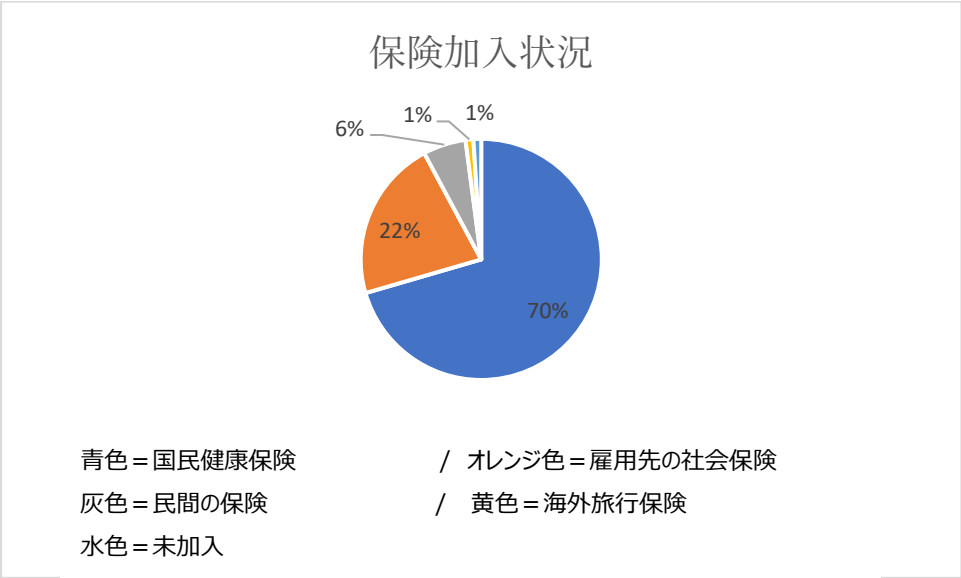
在留資格別内訳　(回答数=355)	人数	%
帰化	2	0.6
永住者	46	13.0
就労	75	21.1
学生	209	58.9
家族滞在	19	5.4
短期滞在　（観光、商用）	4	1.1

2.9 健康保険等加入状況

健康保険等への加入状況の回答したのは 352 名であった。

回答者の：

- 76.7%（3 分の 2 以上）は国民健康保険に加入している。
- 23.6%は雇用先の社会保険に、6.3%は海外旅行保険にそれぞれ加入している。
- 1.1% は健康保険・医療保険には未加入である。



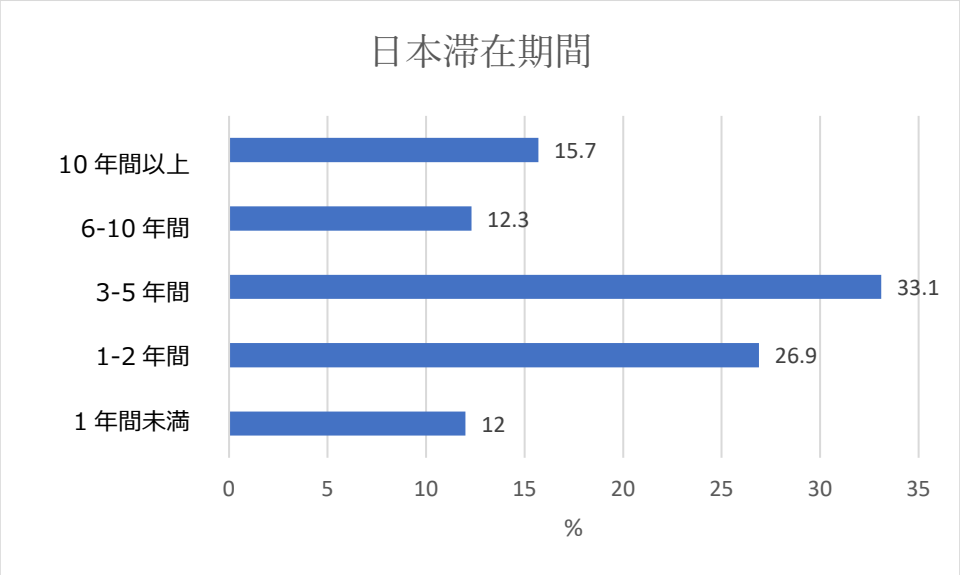
健康保険加入状況 **(回答数=352)**	人数	**%**
国民健康保険	270	76.7
雇用先の社会保険	83	23.6
民間の医療/健康保険	22	6.3
海外旅行保険	4	1.1
未加入	4	1.1

2.10 日本滞在期間

357 名の回答者が日本における滞在期間についての設問に回答した。

回答者の：

- 12%は 1 年間以下である。
- 3 分の 2 弱は 3 年間以下で、約 40%は 2 年間である。
- 15.7%は 10 年間以上である。



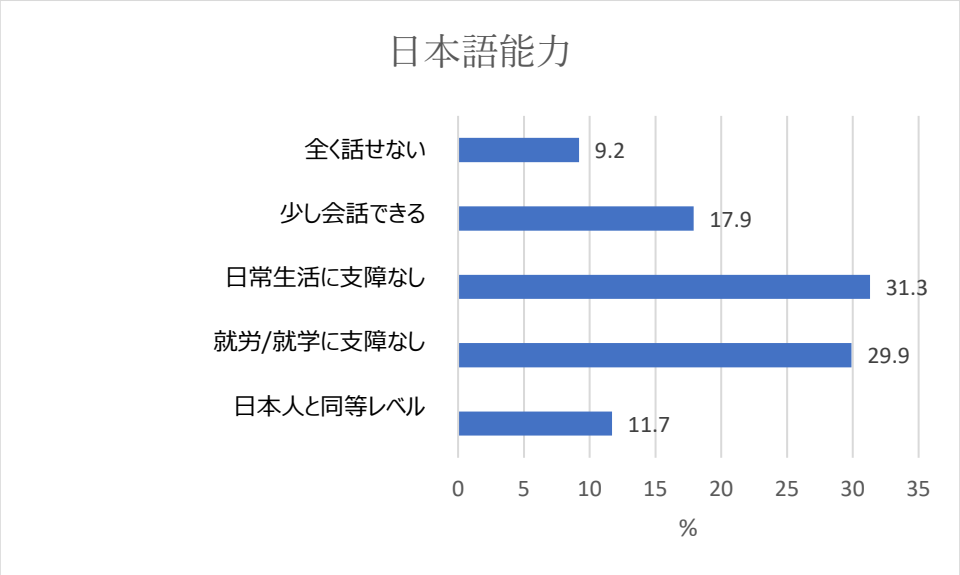
日本滞在期間　(回答数=357)	人数	**%**
1 年間未満	43	12.0
1 - 2 年間	96	26.9
3- 5 年間	118	33.1
6 - 10 年間	44	12.3
10 年間以上	56	15.7

2.11 日本語能力

358 名の回答者が日本語能力についての設問に回答した。

回答者の：

- かなりの割合で日常生活に必要な、もしくはそれ以上の日本語能力を有している一方で 25%以上は日常会話に支障があると回答した。
- 9.2%は日本語を全く話せないと回答した。



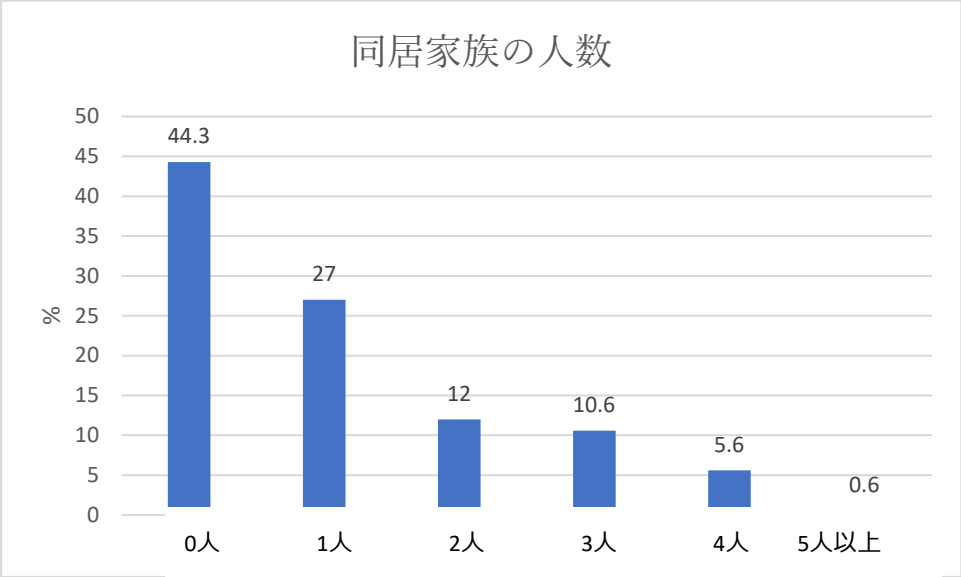
日本語能力 (回答数=358)	人数	**%**
日本人と同等レベル	42	11.7
就労/就学に支障なし	107	29.9
日常生活に支障なし	112	31.3
少し会話できる	64	17.9
全く話せない	33	9.2

2.12 現在の同居人数について

359 名が回答した。（回答率 100%）

回答者の：

- 44.3%は同居者なしである。
- 65.7% は同居家族は 1 名以上である
- 6.2% は同居家族は 4 名か 4 名以上である。



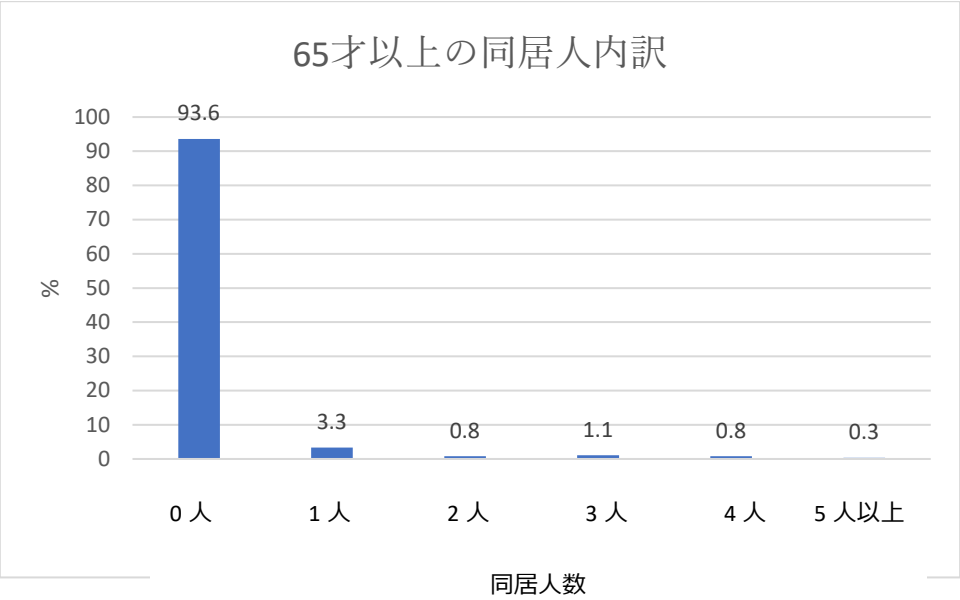
同居家族の人数 (回答数=359)	人数	%
0 名	159	44.3
1 名	97	27.0
2 名	44	12.0
3 名	38	10.6
4 名	20	5.6
5 名以上	2	0.6

2.12　65 才以上の同居人の有無について

359 名が回答した。（回答率 100%）

回答者の：

- 93.6%は 65 才以上の同居人はいない。
- 6.4%は 1 人かそれ以上の 65 才以上の同居人がいる。



65 才以上の同居人数　**(回答数=359)**	人数	**%**
0 名	336	93.6
1 名	12	3.3
2 名	3	0.8
3 名	4	1.1
4 名	3	0.8
5 名以上	1	0.3

3. 家族との関わり状況

家族の居住地及び連絡頻度に係る質問は以下の結果となった。

主たる調査結果

回答者の：

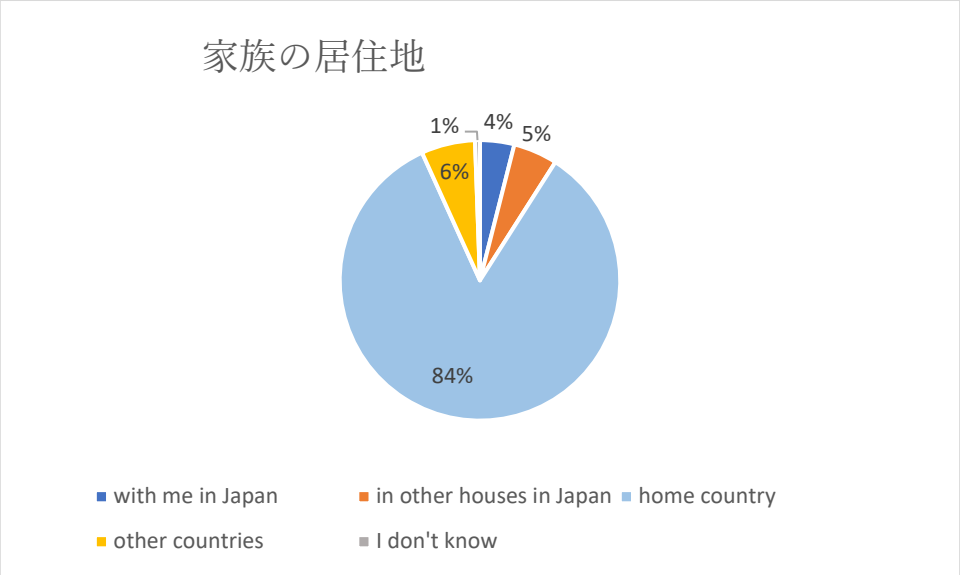
- 83.5%の家族は母国にいる。
- 7.6%は家族はいないと回答し、8.9%の家族は日本に居住している。
- 75.7%が家族に会ったのは 1 年間以上前と回答した。
- 96.0%は定期的に家族と連絡を取り合っており、連絡の頻度については、過半数以上の 50.6%は毎週と回答し、32.5%は毎日と回答した。

3.1 家族の居住地

家族の居住地について 357 名が回答した。

家族の居住地について、回答者の：

- 83.5%は母国である。
- 7.6%は家族はいないと回答した。
- 8.9%は日本に居住していると回答し、内 3.9%は日本で同居、5%は日本の別の地域に居住していると回答した。



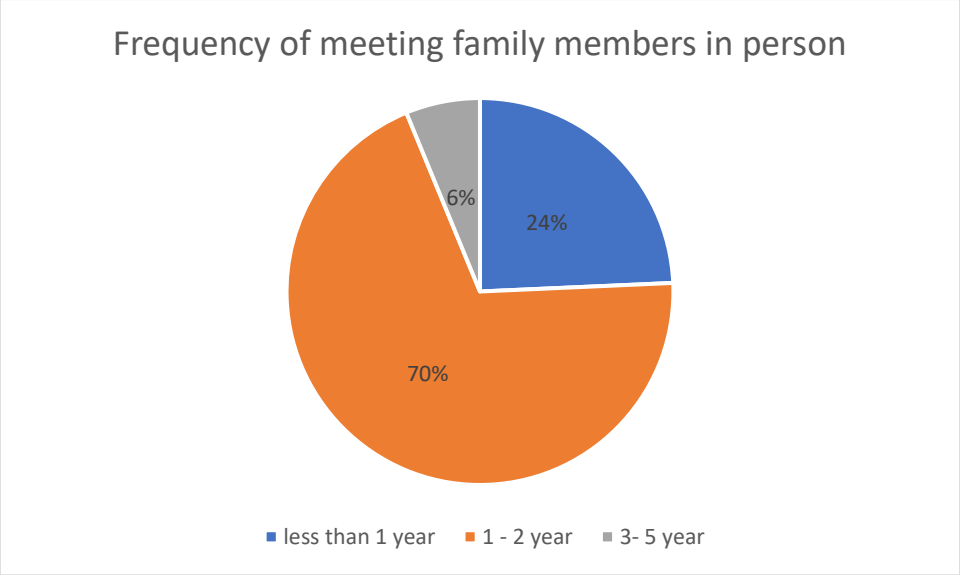
家族の居住地(回答数=357)	人数	%
家族なし	27	7.6
日本で同居	14	3.9
日本の別の地域に居住	18	5.0
母国	298	83.5
日本・母国以外の国/地域	22	6.2
不明	2	0.6

3.2 家族に最後に会った時期について

最後に家族に会った時期について回答したのは、354 名であった。

回答者の：

- 75.7%　は、1 年以上前と回答した。
- 69.5%　は、1-2 年以上前で、6.2%は 3-5 年以上前と回答した。



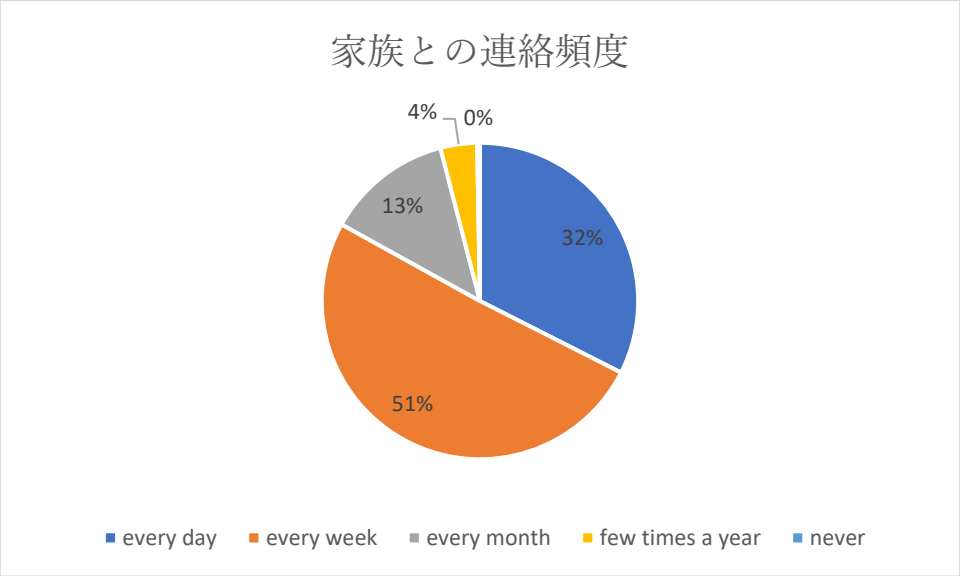
最後に家族に会った時期 (回答数=354)	人数	%
1 年以内	86	24.3
1 - 2 年前	246	69.5
3- 5 年前	22	6.2
6 - 10 年前	0	0
10 年以上前	0	0

3.3 家族との連絡頻度について

家族との連絡頻度について 348 名が回答した。

回答者の：

- 96.0%は定期的に家族と連絡を取り合っており、連絡の頻度については、過半数以上の 50.6%は毎週と回答し、32.5%は毎日と回答した。
- 12.9% は毎月と回答した。
- 3.7%は年に数回程度と回答した。
- 0.3%は全く連絡しないと回答した。



家族との連絡頻度　(回答数=348)	人数	%
毎日	113	32.5
毎週	176	50.6
毎月	45	12.9
年数回	13	3.7
全くしない	1	0.3

4. COVID-19 に係る情報源

本調査では、在住外国人に対して、COVID-19 の感染拡大下でのサポートの有無や情報の入手方法及び COVID-19 に関する母語での情報についての調査を行った。

主たる結果

回答者の：

- 88.4%と大半が相談相手がいると回答した一方で、11.6% は相談相手がいないと回答した。主たる相談相手は「母」「父」と回答し、その率は 63.1%と 39.3%であった。
- 75.8%は COVID-19 に関する情報源として、テレビ・新聞・雑誌やインターネットを挙げている人が最も多く、続いて 58.7%は Twitter, Facebook, Instagram 等の SNS、さらに 35.1%が母国の家族を挙げている。

また、COVID-19 関連の情報を母語で希望する内容は：

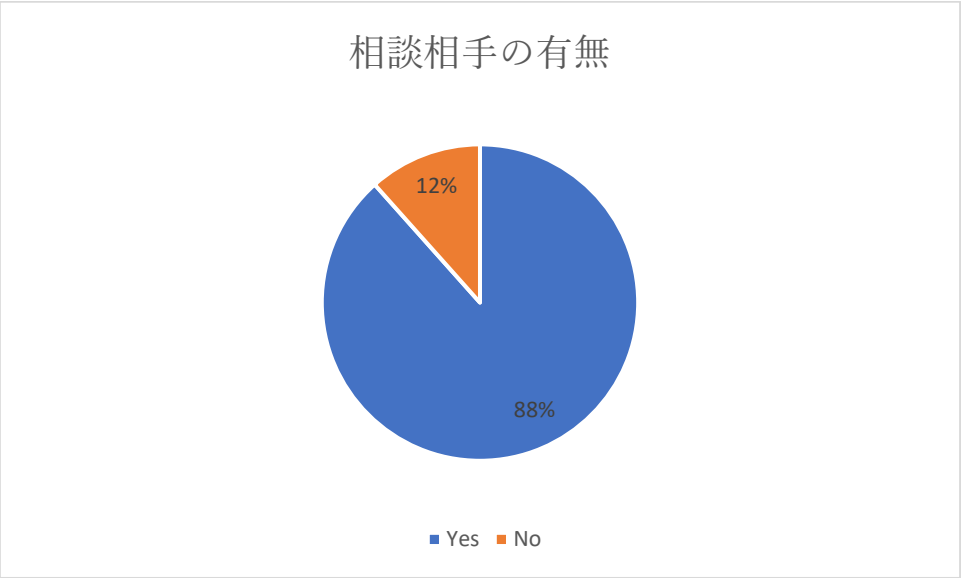
- 63.5%が感染した時の症状に関する情報と最も多い。続いて約半分を占める 52.4%は感染した時の行動についての情報を希望しており、さらに 49.7%はコロナ禍での経済的支援についての情報を希望している。

4.1 相談相手について

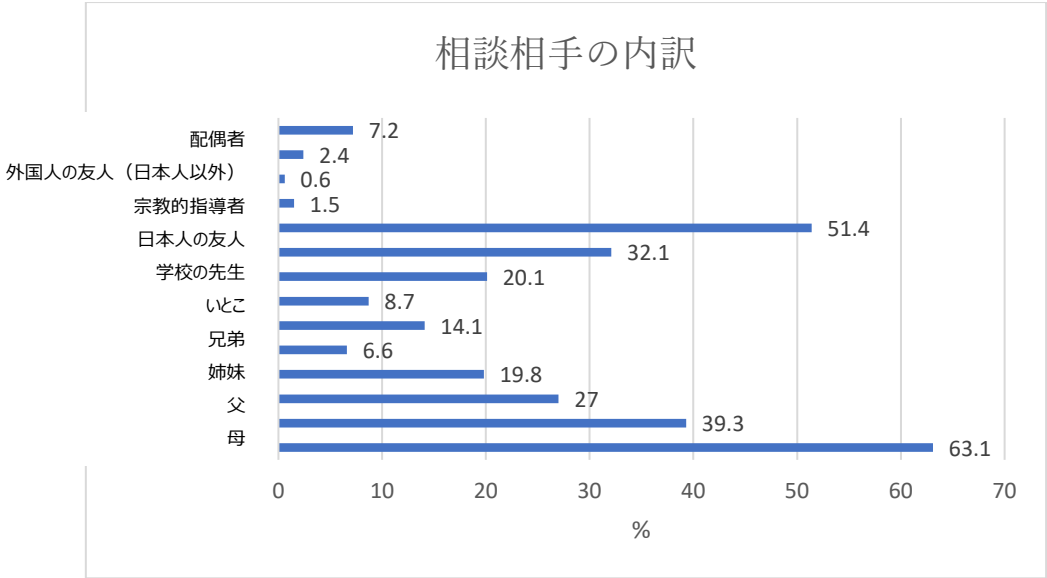
345 名の回答者は相談相手がいると回答している。

回答者の：

- 88.4%は相談相手がいると回答している。
- 11.6% は相談相手がいないと回答している。
- 相談する相手で最も多いのは「母」「父」でそれぞれ 63.1% と 39.3%を占めている。
- 27.0%は「姉妹」で、続いて 19.8%は「兄弟」と回答している。
- その他の割合は、家族以外に相談すると回答している。
- 51.4%は母国にいる「友人」を相談相手として挙げている。



相談相手について(回答数=345)	人数	%
いる	305	88.4
いない	40	11.6

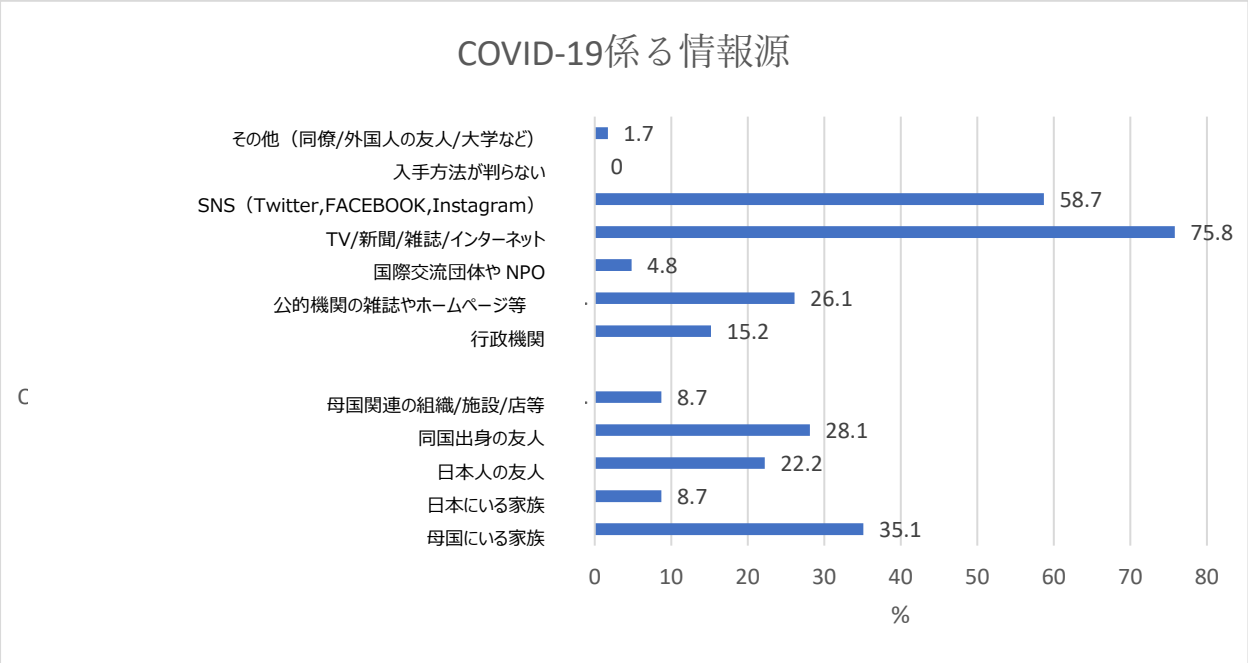


相談相手　(回答数=333)	人数	%
母	210	63.1
父	131	39.3
姉妹	90	27.0
兄弟	66	19.8
いとこ	22	6.6
その他の親族	47	14.1
先生	29	8.7
同僚	67	20.1
日本人の友人	107	32.1
母国にいる友人	171	51.4
宗教の指導者	5	1.5
公的機関	2	0.6
外国人の友人（日本人以外）	8	2.4
配偶者/パートナー	24	7.2

4.2 COVID-19 に関する情報源

COVID-19 に係る情報源について、回答者の：

- 75.8%と大半は、テレビ・新聞・雑誌やインターネットを挙げている。
- 58.7%の回答は、Twitter, Facebook, Instagram 等の SNS と 2 番目に多い。
- 35.1%は母国からの情報と回答し、3 番目に多い結果となった。
-



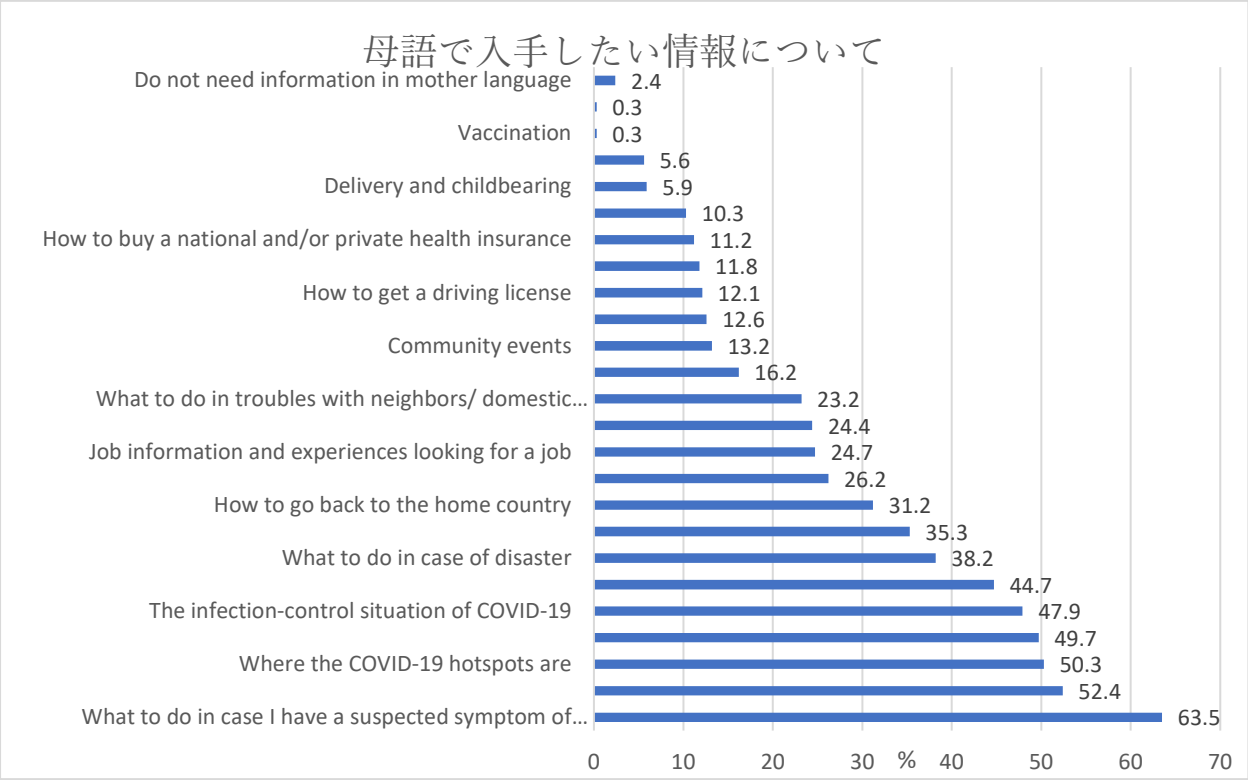
COVID-19 に関する情報の入手方法 (回答数=356)	人数	%
母国にいる家族	125	35.1
日本にいる家族	31	8.7
日本人の友人	79	22.2
同国からの友人	100	28.1
同国人が利用する（集まる）組織/施設/お店	31	8.7
行政機関	54	15.2
公的機関は発行する情報誌やホームページ	93	26.1
民間の国際交流団体	17	4.8
テレビ・新聞・雑誌・インターネット	270	75.8
SNS (Twitter, Facebook, Instagram, …)	209	58.7
入手方法が判らない	0	0.0
その他 (同僚/外国人の友人/大学等)	6	1.7

4.3 母語で入手したい情報

COVID-19 の情報を母語で入手したい COVI-19 に関する情報についての調査結果は以下の通りとなった。

母語で入手したい情報の内容について、回答者の：

- 63.5%は感染した時の症状についてと回答した。
- 52.4%は感染した際の行動について、50.3%は感染率が高い地域について、49.7%は経済支援についての情報を挙げている。
- 47.9%は感染制御に係る情報と回答した。
- 44.7%は病院やクリニックに行く際の行動についての情報を挙げている。



母語で受けたい情報について (回答数=340)	人数	%
COVID-19 感染した時の症状について	216	63.5
コロナ禍での病気やケガをした時の対処・行動について	178	52.4
災害時の行動について	130	38.2
病院やクリニックに行くときにどうしたらよいか	152	44.7
近所/DV/セクハラの時の対処について	79	23.2
出産や子育てについて	20	5.9
子どもが問題を抱える時の対処について	35	10.3
子どもの教育や学校について	43	12.6
COVID-19 の制御状況について	163	47.9
COVID-19 感染時に受診できる病院について	171	50.3
COVID-19 感染予防策について	120	35.3
COVID-19 に関する経済支援について	169	49.7
帰国の手段について	106	31.2
ビザ延長方法について	89	26.2
日本に家族を呼び寄せる方法について	19	5.6
公共交通機関について	40	11.8
運転免許取得について	41	12.1
税制度や年金制度について	83	24.4
地域活動について	45	13.2
住居確保の仕方について	55	16.2
就職情報や就活方法について	84	24.7
国民健康保険や民間保険の加入方法について	38	11.2
その他 (上記に当てはまらない場合の記載された項目):		
- 母語での情報は不要	8	2.4
- 予防接種について	1	0.3
- COVID-19 検査の基準について	1	0.3

5. 身の回りのトラブルなど

本調査ではコロナ禍における日本で生活するにあたり身の回りの不安やトラブルについて質問し、以下の結果となった。

主たる結果

回答者の：

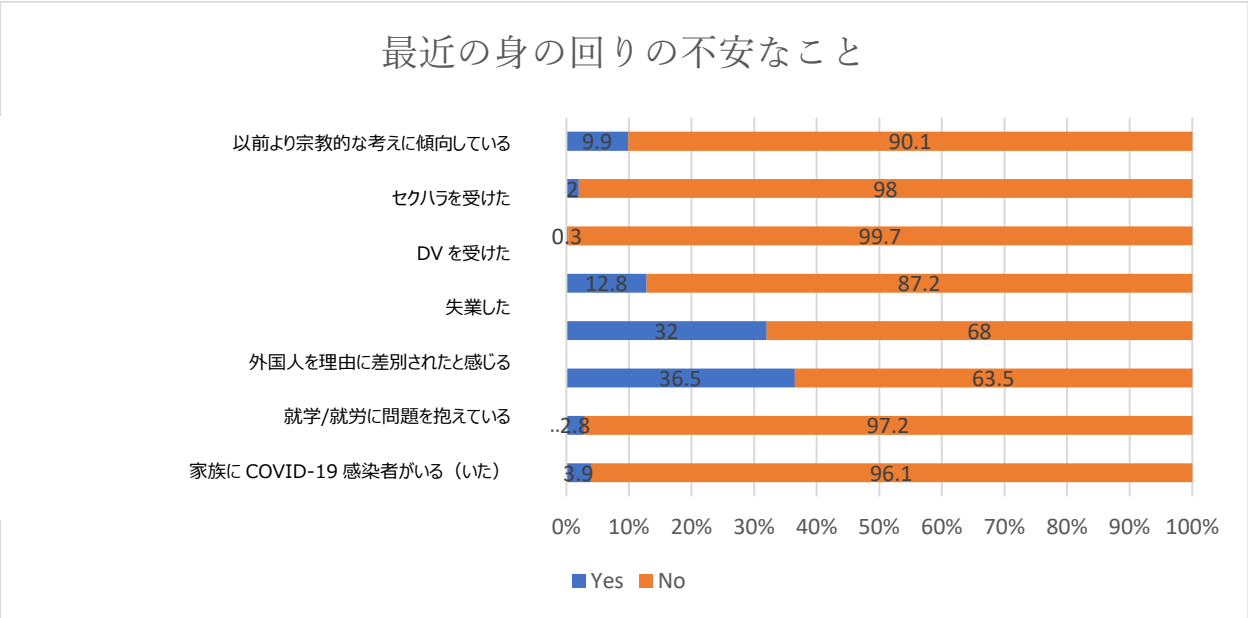
- 36.5% は就学や就労に対する問題や不安を抱え、32%は外国人であることを理由に差別されていると感じている。
- 12.8% は職を失ったと回答した。
- 52.7%は COVID-19 感染への不安と回答した。
- 60.7%は平常通りと回答した一方で、 41.5% は不安であると回答した。
- 約半数は、収入が減り、友人や隣人との交流の機会が減ったと回答した。
- 約 50%は屋外での活動が減った一方で、ゲーム・スマートフォン・テレビに費やす時間が増えたと回答した。
- 30%は睡眠時間が減り、また、体重が増加したと回答した。
- 47.1%は家計が不安定になったと回答した。
- 3 分の 1 は、心身及び性的満足度が減少したと回答した。

5.1 最近の身の回りの不安なこと

本調査での最近または現在抱えている身の回りのトラブルに関する結果は以下のとおりであった。

回答者の：

- 36.5% は就学や就労に対する問題や不安を抱え、32%は外国人であることを理由に差別されていると感じている。
- 12.8%のみが失職の不安を抱えており、不安な生活な状況下でも宗教的な思想に頼るのはより少ない 9.9%に留まり、COVID-19 に感染が確認された家族がいる（3.9%）と感染の疑いがあるが検査を受けていない家族がいると回答したのは 2.9% で、セクハラを受けた（2.0%）と DV に悩むのは 0.3%という結果になった。

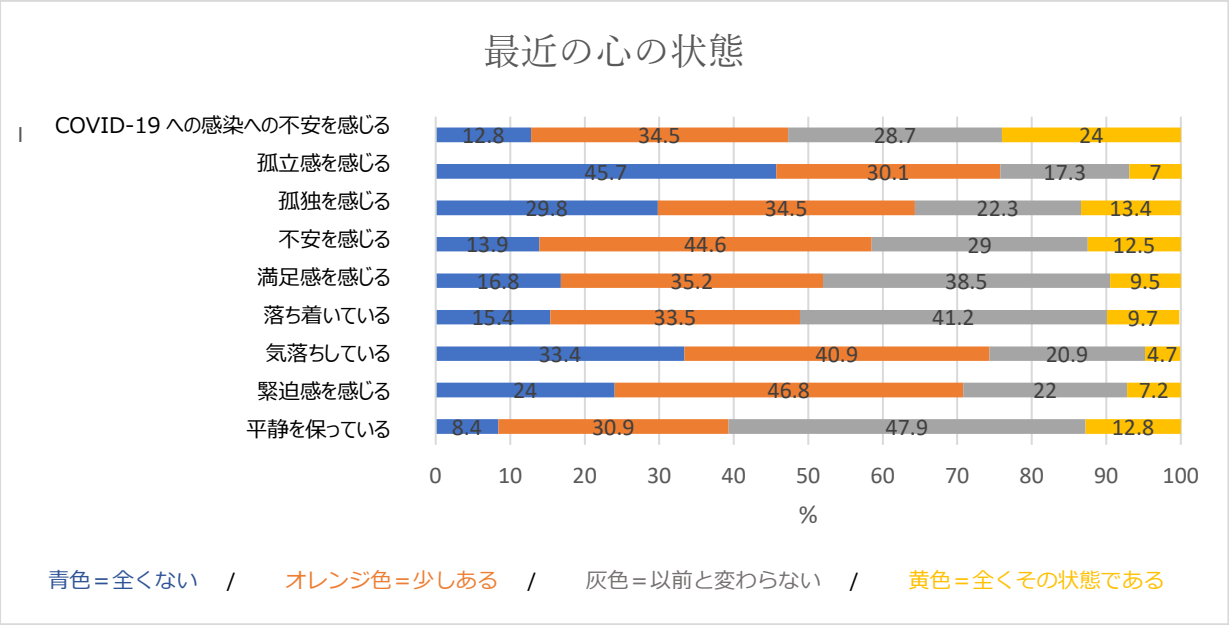


最近の身の回りの不安・トラブルなど	人数	%
COVID-19 に感染した家族がいる (回答数=356)		
はい	14	3.9
いいえ	342	96.1
COVID-19 感染疑いがあるか検査を受けていない家族がいる (回答数=353)		
はい	10	2.8
いいえ	343	97.2
就学や就労へのトラブルや不安がある (回答数=345)		
はい	126	36.5
いいえ	219	63.5
「外国人」を理由に差別されていると感じる (回答数=338)		
はい	108	32.0
いいえ	230	68.0
職を失った (回答数=344)		
はい	44	12.8
いいえ	300	87.2
家庭内暴力（DV）を受けた (回答数=353)		
はい	1	0.3
いいえ	352	99.7
セクハラを受けた (回答数=349)		
はい	7	2.0
いいえ	342	98.0
宗教的思想に以前よりも傾向している/より共感を感じる (回答数=344)		
はい	34	9.9
いいえ	310	90.1

5.2. 最近の心の状態:

回答者の最近の心の状態についての調査結果は以下のとおりである。

- 半数強の回答者は、COVID-19 に感染することへの不安を感じている (52.7%)
- 3 分の 2 近くの回答者の心の状態は平静を保っている (60.7%)
- ちょうど半数の回答者は落ち着いていて（50.9%)、おおよそ半数の回答者は、満足感を感じてる (48.0%).
- また、半数以下の回答者は不安感(41.5%)，孤独感（35.7%)，緊迫感（29.2%)，気落ち感 (25.6%)を抱えている。



最近の心の状態	人数	%
平静を保っている　(回答数=359)		
- 全くない	30	8.4
- 少しある	111	30.9
- 以前と変わらない	172	47.9
- 全くその状態である	46	12.8
緊迫感を感じる (回答数=359)		
- 全くない	86	24.0
- 少しある	168	46.8
- 以前と変わらない	79	22.0
- 全くその状態である	26	7.2

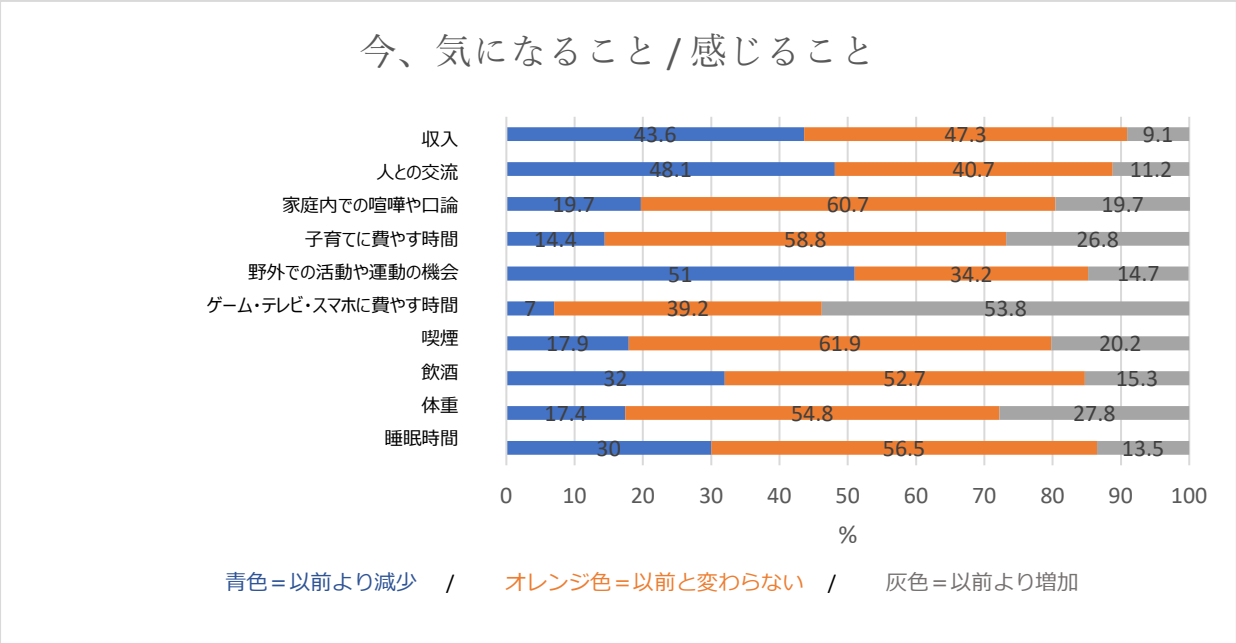
気落ちしている（回答数=359)		
- 全くない	120	33.4
- 少しある	147	40.9
- 以前と変わらない	75	20.9
- 全くその状態である	17	4.7
落ち着いている　(回答数=358)		
- 全くない	55	15.4
- 少しある	120	33.5
- 以前と変わらない	148	41.2
- 全くその状態である	35	9.7
満足感を感じている　(回答数=358)		
- 全くない	60	16.8
- 少しある	126	35.2
- 以前と変わらない	138	38.5
- 全くその状態にある	34	9.5
不安を感じている　(回答数=359)		
- 全くない	50	13.9
- 少しある	160	44.6
- 以前と変わらない	104	29.0
- 全くその状態である	45	12.5
孤独を感じる　(回答数=359)		
- 全くない	107	29.8
- 少しある	124	34.5
- 以前と変わらない	80	22.3
- 全くその状態である	48	13.4
孤立感を感じる　(回答数=359)		
- 全くない	164	45.7
- 少しある	108	30.1
- 以前と変わらない	62	17.3
- 全くその状態である	25	7.0
COVID-19 への感染に不安を感じる (回答数=359)		
- 全くない	46	12.8
- 少しある	124	34.5
- 以前と変わらない	103	28.7
- 全くその状態である	86	24.0

5.3 今、気になること/感じている問題:

自分に関して「今、気になること」や「感じてる問題」に関する調査については以下の結果となった。

回答者の：

- 43.6% は、収入が減少した回答した。
- 48.1% は、友人や近所の人との関わり/交流の機会が減ったと回答した。
- 53.8% は、ゲーム・テレビ・スマートフォンに費やす時間が長くなった一方で、屋外での活動時間が短くなったと回答した。
- 30% は、睡眠時間が短くなった一方で、体重が増加したと回答した。



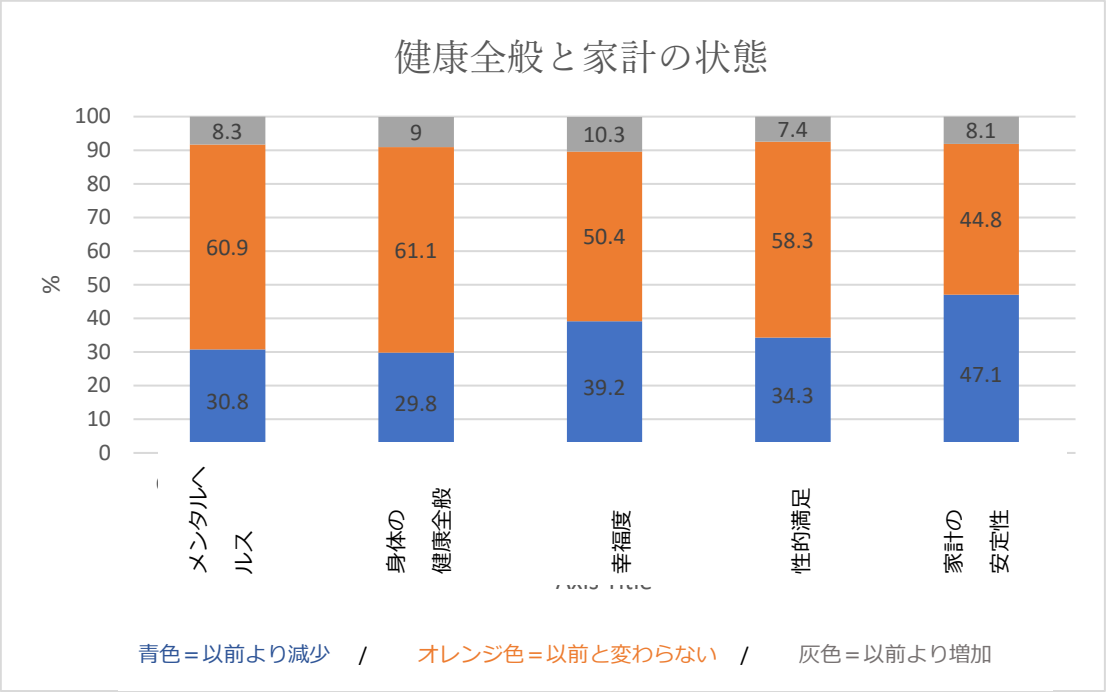
今感じていること・気になること	人数	%
睡眠時間　(回答数=333)		
以前より減少	100	30.0
以前と変化なし	188	56.5
以前より増加	45	13.5
体重の増減　(回答数=334)		
以前より減少	58	17.4
以前と変化なし	183	54.8
以前より増加	93	27.8
飲酒の量(回答数=203)		
以前より減少	65	32.0
以前と変化なし	107	52.7
以前より増加	31	15.3

喫煙の量　(回答数=84)		
以前より減少	15	17.9
以前と変化なし	52	61.9
以前より増加	17	20.2
ゲーム・スマートフォン・テレビに費やす時間　(回答数=314)		
以前より減少	22	7.0
以前と変化なし	123	39.2
以前より増加	169	53.8
屋外での活動/運動の量　(回答数=339)		
以前より減少	173	51.0
以前と変化なし	116	34.2
以前より増加	50	14.7
子育てに費やす時間　(回答数=97)		
以前より減少	14	14.4
以前と変化なし	57	58.8
以前より増加	26	26.8
家庭内での口論や喧嘩 (回答数=122)		
以前より減少	24	19.7
以前と変化なし	74	60.7
以前より増加	24	19.7
友人や近所との付き合い (回答数=285)		
以前より減少	137	48.1
以前と変化なし	116	40.7
以前より増加	32	11.2
収入　(回答数=298)		
以前より減少	130	43.6
以前と変化なし	141	47.3
以前より増加	27	9.1

5.4 健康と家計の状態

回答者の：

- 47.1% は、家計が全般的に不安定になったと感じている。
- 過半数が心身の健康に変化なしと回答している一方で、39.2%は幸福度の低下を感じ、30.8%はメンタルヘルスに、29.8%は体の健康により不安を感じている。また、34.3%は性的満足度も減少していると回答している。



メンタルヘルス全般　(回答数=325)		
以前より不安定	100	30.8
以前と変わらない	198	60.9
以前より安定	27	8.3
体の健康全体 (回答数=332)		
以前より不安定	99	29.8
以前と変わらない	203	61.1
以前より安定	30	9.0
幸福度　(回答数=339)		
以前より減少	133	39.2
以前と変わらない	171	50.4
以前より増加	35	10.3
性的満足度　(回答数=204)		
以前より減少	70	34.3
以前と変わらない	119	58.3
以前より増加	15	7.4
家計の安定　(回答数=308)		
以前より不安定	145	47.1
以前と変わらない	138	44.8
以前より安定	25	8.1

6. 子どもの生活状態について

子どもがいる回答者に対して、コロナ禍での子どもの行動や健康への影響にかかる調査を行い、以下の結果となった。

主たる傾向

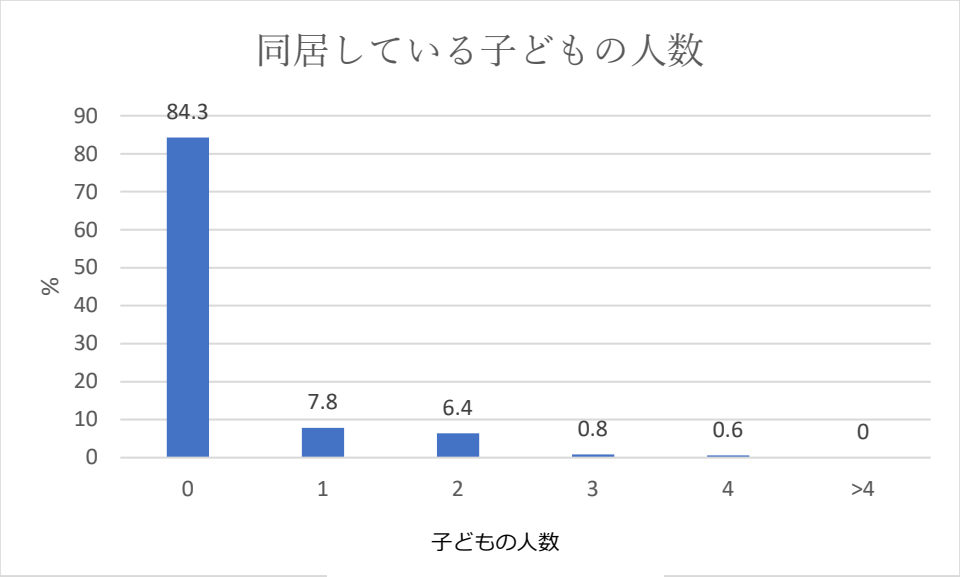
回答者の：

- 15.7% のみが 1 人以上の子どもと同居している。
- 52.2% の子どもがゲーム・スマートフォンやテレビに費やす時間が短くなっている一方で、47.8%の子どもはこれらに費やす時間が長くなっている。
- 32.7% の子どもは屋外での活動や運動量が減っている。
- COVID-19 による子どもの幸福度が最も影響を受けており、20.0%の子どもは幸福度が下がり、12.2%の子どもはメンタルヘルスの問題を抱えている。

6.1 子どもの人数　（子どもの定義は「18 才未満」とする。）

回答者の：

- 84.3% は子どもと別居している。
- 15.7% は、子どもと同居している。



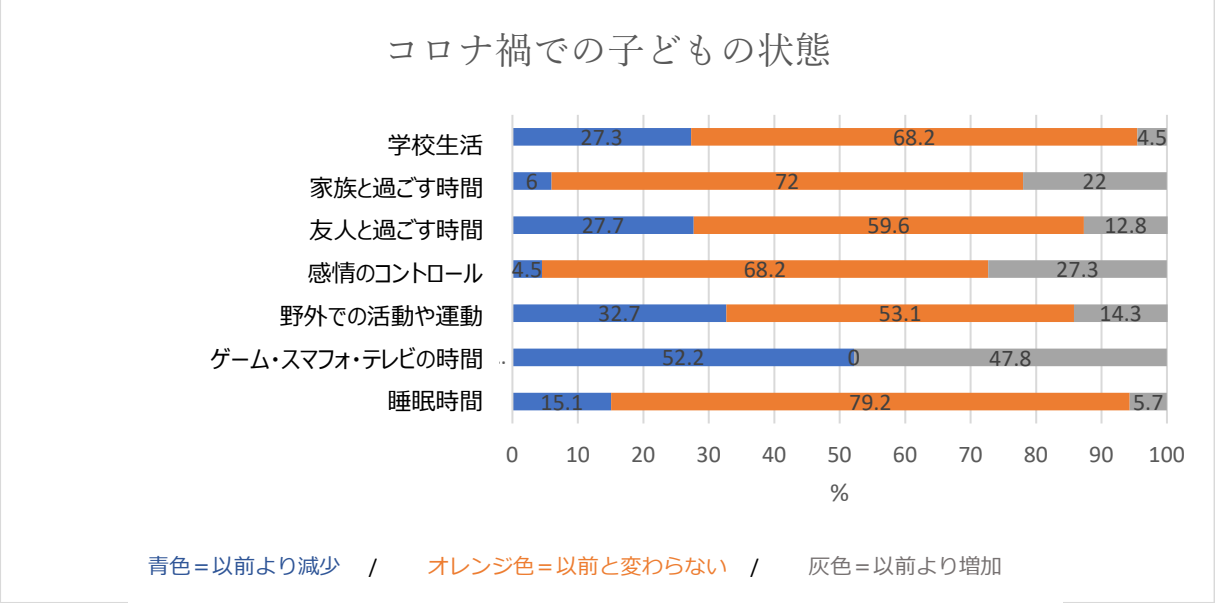
同居している子どもの人数（回答数=357）	人数	%
0 人	301	84.3
1 人	28	7.8
2 人	23	6.4
3 人	3	0.8
4 人	2	0.6
5 人以上	0	0

6.2 コロナ禍での子どもの状態

コロナ禍以前に比較し、コロナ禍での子どもの状態の変化に係る調査結果は以下のとおり。

回答者の子どもの：

- 52.2% は、ゲーム・スマートフォンやテレビに費やす時間が減っている一方で、47.8% の子どもはこれらに費やす時間が増えている。
- 32.7% は、屋外での活動や運動量が減っている。
- 27.3% は、かんしゃくを起こしたり、感情の起伏が激しくなっている。
- 27.7% は、友人と過ごす時間が減っている一方で、22.0%の子ども以前よりも家族と過ごす時間が増えている。
- 27.3% は、学校での活動や学校生活の時間が減っている。



子どもの睡眠時間　(回答数=53)	**人数**	**%**
以前より減少	8	15.1
以前と変わらない	42	79.2
以前より増加	3	5.7
子どもがゲーム・スマートフォン・テレビに費やす時間　(回答数=46)		
以前より減少	24	52.2
以前と変わらない	0	0
以前より増加	22	47.8
子どもの屋外活動や運動の量　(回答数=49)		
以前より減少	16	32.7

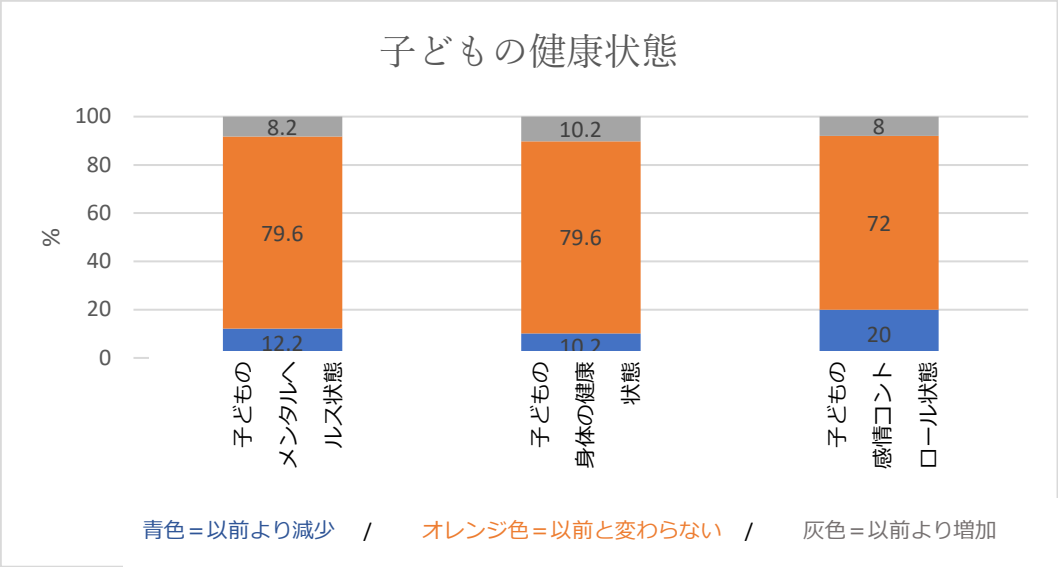
以前と変わらない	26	53.1
以前より増加	7	14.3
子どもの感情的行動やかんしゃくの発生頻度　(回答数=44)		
以前より減少	2	4.5
以前と変わらない	30	68.2
以前より増加	12	27.3
子どもが友人と過ごす時間　(回答数=47)		
以前より減少	13	27.7
以前と変わらない	28	59.6
以前より増加	6	12.8
子どもが家族と過ごす時間　(回答数=50)		
以前より減少	3	6.0
以前と変わらない	36	72.0
以前より増加	11	22.0
子どもの学校生活や活動 (回答数=44)		
以前より減少	12	27.3
以前と変わらない	30	68.2
以前より増加	2	4.5

6.3 子どもの健康状態について

子どもの健康状態については以下の結果となった。

回答者のこどもの：

- 70%以上は、コロナ禍前と渦中でも感情や心身の健康状態に概ね変更なしと回答している。
- 20.0% は、幸福度が低下していると回答しているように、子どもの心が最も影響を受けている。
- 12.2% は、メンタルヘルス状態が悪くなったと回答している。
- 10.2%は、体の健康状態が悪くなったと回答している。



心身の健康状態	人数	%
子どものメンタルヘルス （回答数=49)		
以前より不安定	6	12.2
以前と変わらない	39	79.6
以前より安定	4	8.2
子どもの身体の健康状態 (回答数=49)		
以前より不安定	5	10.2
以前と変わらない	39	79.6
以前より安定	5	10.2
子どもの幸福度 (回答数=50)		
以前より不安定	10	20.0
以前と変わらない	36	72.0
以前より安定	4	8.0

その他の抱える問題や心配していることがあれば記述してください（抜粋）

- サポートや頼れる人なしに、コロナ感染した際の経済的や精神的負担。
- 日本へ配偶者を呼び寄せる手続きが判らない。
- 留学生はコロナ禍でのアルバイト確保が困難になってきている。
- 母国とのフライトのキャンセル状態となっている中で、母国への帰国許可を取得するのが難しい。
- 家族経営しているレストランの収入が不安定となっていることが精神的ダメージである。
- 母国の駐日大使館の情報が不十分である。これら大使館や国際機関がもっと最新の情報を発信するか、県庁などのホームページがグーグル翻訳機能とリンクしていれば、身近な情報をタイムリーに入手できると感じる。
- 母国にいる家族に不慮の事態があっても直ぐに帰国できない状況がストレスの原因となっている。オンラインで会話はできるが直接会うのとは異なるので、特に母国にいる両親に会うことができず寂しく感じている。移動制限下で研究調査のために往来ができないためデータや情報が足らず思うように研究が進まない。行き詰った感じである。コロナ禍の終息が見えない状況そのものも不安であり、特に専門家によって発信する情報が異なるので何を信じてよいか解らず混乱することもある。
- 日本のＰＣＲ検査を受ける手続き等が複雑で、どこに行けばよいのかどうしたらよいのかもわからない。
- パンデミック下で、単身で日本に住み続けるのはつらい。孤独化を避けるために地域活動や外出または友人等の時間を勧めるのは感染拡大のリスクを高めことに繋がり、多くの人のメンタルヘルス状態は低下しているように思います。
- 学費や生活費の支払いが困難である。
- オンラインでの仕事がストレスである。